

# 真宗大谷派高山別院照蓮寺の地域文化史的存在意義



第4回飛騨高山学会

2022. 12. 10-11

飛騨・世界生活文化  
センター 飛騨芸術堂

同朋大学文学部

安藤 弥

DOHO UNIVERSITY

LITERATURE

ANDO Wataru

# 1. はじめに

- 飛騨高山にある、真宗大谷派高山別院照蓮寺（高山市鉄砲町6）という歴史的存在。
- 本報告：高山別院照蓮寺の地域社会における存在意義を考える。

- 真宗大谷派：親鸞（1173-1262）という鎌倉時代の僧を宗祖とする「浄土真宗」の一宗派。本山は京都東本願寺（真宗本廟）。
- 「別院」とはその地方支院（前近代は「御坊」と呼称）。その地その地における本願寺というような存在（ex.名古屋であれば名古屋御坊（東別院）が存在）。
- 同朋大学：愛知県名古屋市に所在する真宗大谷派の関係大学。社会福祉学部・文学部の二学部で構成される小規模大学（1826名古屋御坊の一画に設置された「閲蔵長屋」がはじまり。1921「真宗専門学校」→戦後、現在地に移転して1950大学昇格→1959「同朋大学」）。  
※飛騨高山にも卒業生が存在：真宗寺院や福祉施設などで活躍。
- 報告者：文学部（・大学院）で仏教・歴史を学生・院生とともに学ぶ教員。主に戦国時代（～近現代）の宗教文化史・地域社会史に専門的関心→飛騨高山にも縁があり、すでにフィールドワークの実施や講座・学習会等への出講等の蓄積。

# 1. はじめに

- 飛騨高山にある、真宗大谷派高山別院照蓮寺（高山市鉄砲町6）という歴史的存在。
- 本報告：高山別院照蓮寺の地域社会における存在意義を考える。

## 【本報告の目的（研究意義）】

- ① 高山別院照蓮寺：飛騨高山の地域文化に大きく関係してきた歴史（1588金森長近の招請により高山城下町への移転→高山という「まち」の歴史的形成に深く関与）→広く共有したい。
- ② 「歴史資産を用いた地域活性化」という視点→寺院の社会的機能を歴史的に理解しつつ、現代社会において寺院という歴史資産を活かした地域活性化の有効性を探る（他事例にも学ぶ）。
- ③ 「別院」という存在は、地域・教団においてこれからも有意義であり続けられるのか？（という根本的課題も直視する必要があるという事情）



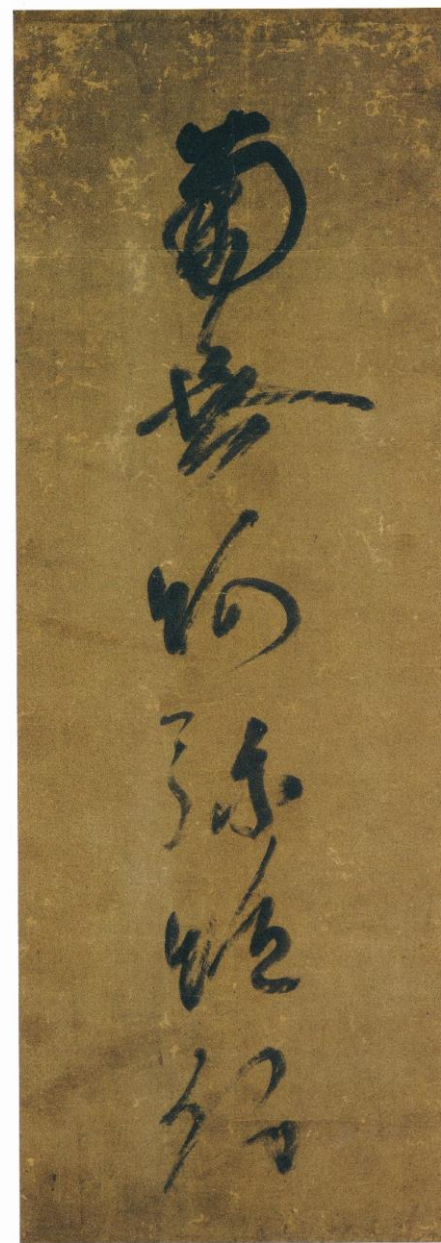
## 2. (高山別院) 照蓮寺の歴史

### (1) 照蓮寺の創建伝承～飛騨の初期真宗：13-15C

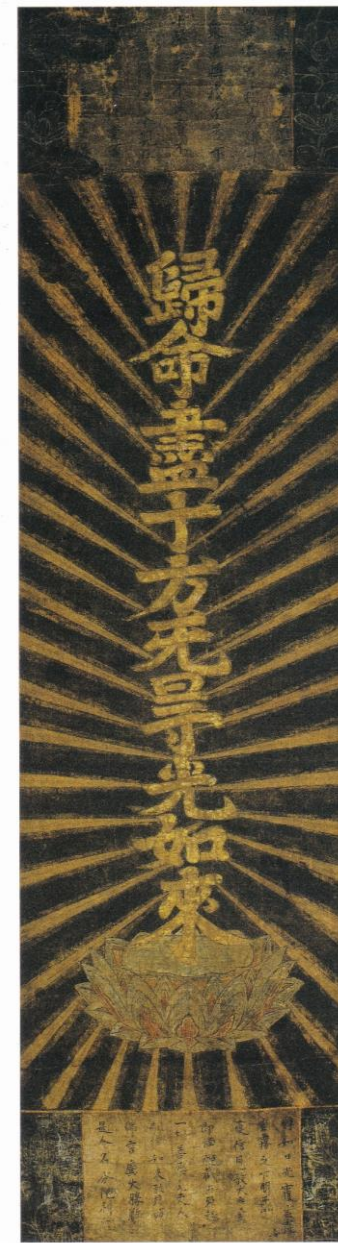
- ・ 開基「嘉念坊善俊」（伝説上の人物）が鎌倉時代に親鸞（1173-1262）の弟子となる。
- ・ 後に飛騨に来訪し、白川郷鳩ヶ谷（岐阜県大野郡白川村鳩ヶ谷）→飯島（同村飯島）に照蓮寺を建立という。
- ・ 南北朝時代に親鸞の系譜を引く信仰集団が、北信越方面から飛騨に入り、白山信仰等ともつながりつつ展開
- ・ (A)光明十字名号、光明九字名号など南北朝～室町期の本尊が照蓮寺に伝存。

### (2) 戦国期における飛騨本願寺門徒の展開：15-16C

- ・ 「白川善俊門徒」集団・照蓮寺11世明心が本願寺蓮如（1415-99）・実如に皈依：(B)蓮如筆六字名号の授与
- ・ 白川に拠点を置く室町幕府奉公衆内ヶ島氏と関係を結び、1504年、白川郷中野に九間四面の本堂を建立。
- ・ 一向一揆・「石山合戦」においては、織田信長に対して徹底抗戦を唱えた教如（東本願寺教如）方として動く。
- ・ のちに羽柴秀吉配下として飛騨に侵攻してきた金森長近と協調関係を結ぶ。



(B)蓮如筆六字名号



(A)光明十字名号



## 2. (高山別院) 照蓮寺の歴史

### (3) 金森長近・金森家と照蓮寺：16-17C

- ・ 照蓮寺は金森長近(C)の招請で1588年、白川から高山に移り、現在地に二十間四面の本堂を建立。
- ・ 江戸初期、金森家から宣心（重頼三男）が入寺。佐奈姫（東本願寺宣如の娘）(D)を室に迎える。
- ・ 照蓮寺：飛騨・美濃・越中・信濃に門末90か寺を有する触頭寺院。
- ・ 1692年、金森氏が出羽移封（→飛騨は幕府直轄領化）。のちに照蓮寺も住職退出（→本山掛所化）

### (4) 近世～近現代の照蓮寺（高山別院）：17-21C

- ・ 高山（金森時代→天領時代）の町形成と照蓮寺
- ・ 飛騨真宗門徒の生活文化と地域社会史
- ・ 現本堂は1963年再建の間口14間・奥行21間・高さ11間の鉄筋コンクリート製建物（山門は1974年）。
- ・ （中野照蓮寺の本堂も移築、国指定重要文化財）



(C) 金森長近像



(D) 佐奈姫像

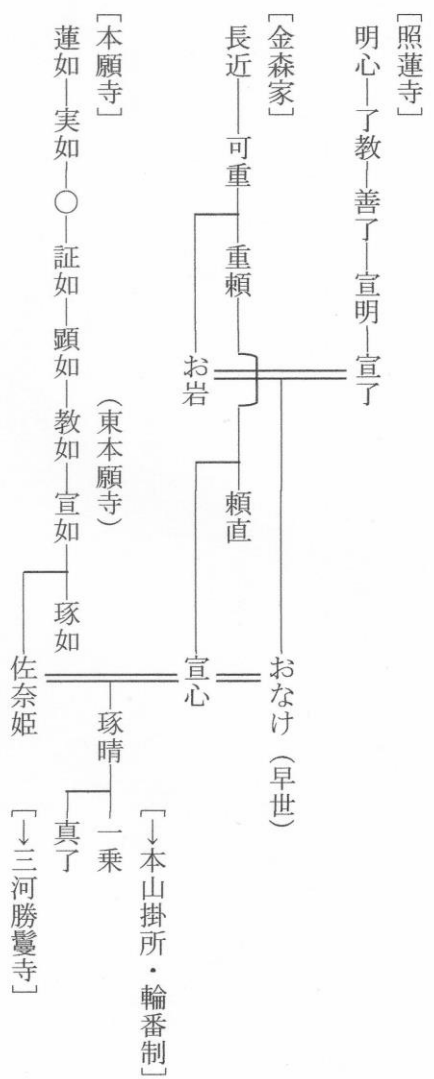
図録『飛騨真宗の伝流』より

故三本昌之氏講演資料より

(E) 金森長近寄進／金森家甲冑 (高山別院寺宝館)



照蓮寺・金森家・本願寺関係系図





◎高山町絵図

- ・天領時代後期（1819以前）  
(from『高山の古地図』：  
故三本昌之氏講演資料)

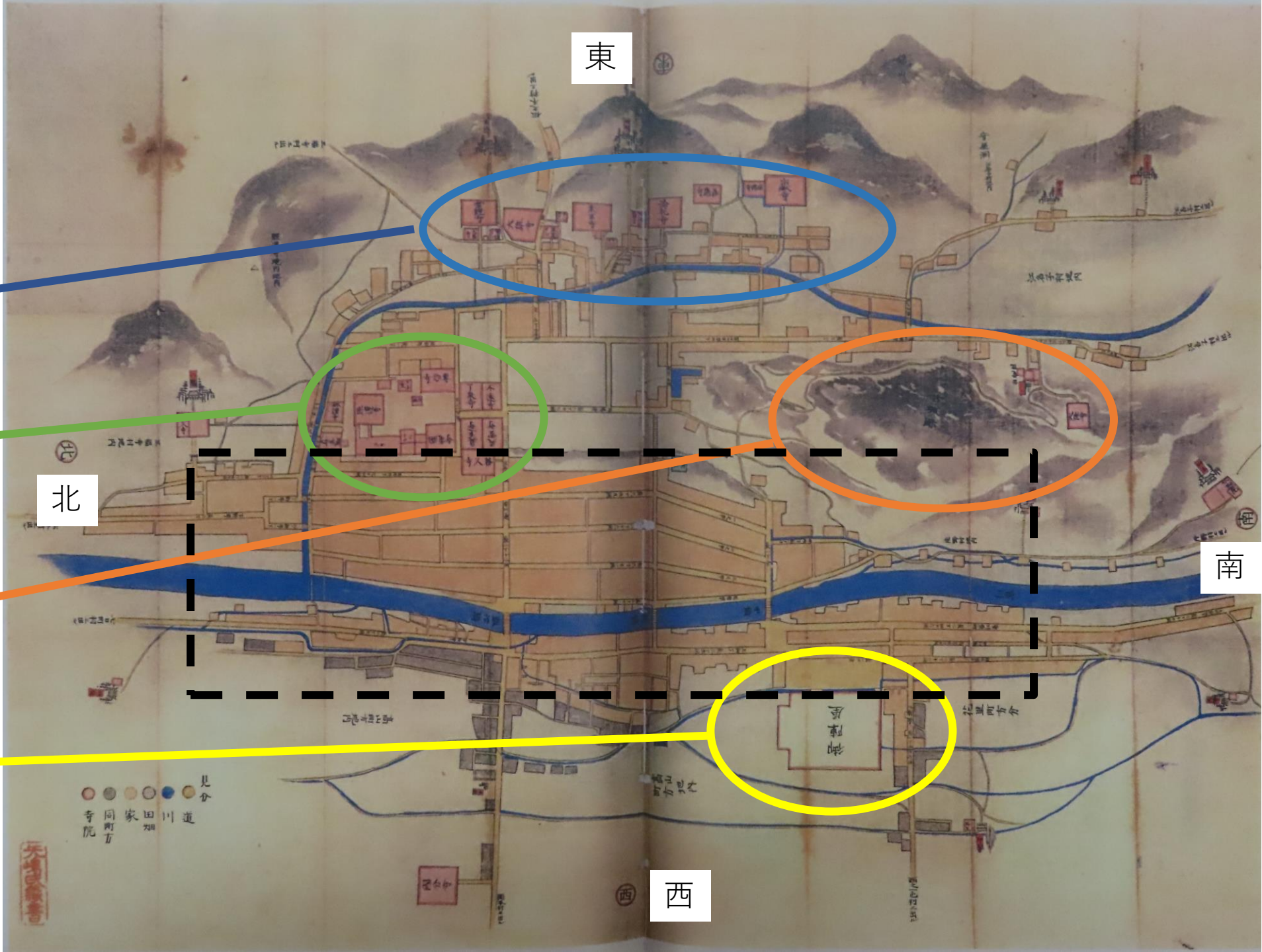
東寺町

照蓮寺  
(飛驒御坊)

御陣屋

御陣屋

[ - - - ] = 町場





# 御斎（おとき）における「高たかまんま」

お米の量は昔、一杯三合だったという。。。

（写真提供：蒲池勢至氏）





### 3. 地域社会と 寺院（別院）

- 近年、地域活性化や町おこしに関して寺院を活用する取り組みが全国的に見出される。
- 寺院の地域社会における役割（歴史）：集会所（公民館）・相談所（カウンセリングルーム）、寺子屋（学校）・貸本屋（図書館）、御斎場（食堂）。境内は地域住民の憩いの場、子どもの遊び場（公園）。劇場・遊園地・博物館的機能も。
- 寺院という場、歴史資産としての意味を理解して前向きに活用していくことが、地域社会への確かな貢献につながる可能性。
- 別院を地域に開いていく事例×2
  - 〔1〕真宗大谷派名古屋別院
  - 〔2〕真宗大谷派姫路船場別院本徳寺



## 〔1〕真宗大谷派名古屋別院（愛知県名古屋市）

- 2013（平成25）年より「なごや寺町まちづくり協議会」と連携、「東別院てづくり朝市」（毎月8・18・28日開催）などの企画実行に取り組んでいる（同別院HP等参照）。朝市では境内・門前にさまざまな店が出され、遠近より多くの人たちが集まり、にぎわっている。
- 近隣の寺院、とりわけ浄土真宗本願寺派名古屋別院（西別院）との間に「まちめぐり」ゾーンを形成し、商店街の活性化にもつながっている。地域の文化や歴史を語り合い継承していくことを目的とした実践も行われている。

〈 なごや寺町まちづくり協議会：<https://nagoya-teramachi.net/> 〉

## 〔2〕真宗大谷派姫路船場別院本徳寺（兵庫県姫路市）

- 「NPO 特定非営利活動法人 歴史と出会えるまちづくり船場城西の会」と連携し、「船場御坊楽市」が開催。
- この取り組みも歴史資産的顕彰に強い関心を持つ姿勢が見出され、携わる人たちの熱意がうかがえる（同別院HP等参照）。

〈 歴史と出会えるまちづくり船場城西の会：<http://www.himesen.com/> 〉



## 4. むすびにかえて

- ・ “まち、と “てら、をつなぐ高山 “ならでは、の持ち味をさらに見つけ出していく
- ・ 高山別院（照蓮寺）の本堂・寺宝館・境内等について、さらなる積極的な連携活用の可能性（別院のみならず…）
- ・ “人が集まる場所、としての寺院の機能性・社会性：歴史的証明、もたらされる安心感→地域文化史的存在意義



### 「ごぼうチャンネル！」

- 飛騨御坊（高山別院）が発信する子ども向け真宗バラエティ番組
- Hit net TV!（飛騨高山ローカルテレビ）にて絶賛放映中！

→ You tubeで視聴可能。  
ぜひご覧ください。



◎高山別院本堂内



◎別院内「寺宝館」…別院史＋中村久子展



# 真宗大谷派高山別院照蓮寺の 地域文化史的存在意義

第4回飛騨高山学会 2022.12.10

同朋大学文学部 安藤 弥

DOHO UNIVERSITY LITERATURE / ANDO Wataru

## 【主要参考文献】

1. 『高山別院史』上巻・下巻・史料編（真宗大谷派高山別院、1985）
2. 『高山の古地図』（高山市郷土館・高山市教育委員会、1992）
3. 「高山市歴史文化基本構想 文化財保存活用計画」（高山市、2010）\*HP参照
4. 『別院探訪』（東本願寺出版部、2012）
5. 『高山市史編纂資料』第1～10号（高山市、2012～2021）
6. 拙稿「〈オトキ〉という場」（『ひだご坊』No.339、2017）
7. 図録『飛騨真宗の伝流 照蓮寺高山移転430年』（大谷大学博物館、2018）
8. 故三本昌之氏講演資料（佐奈姫忌法要、2019）
9. 蒲池勢至『探訪 真宗民俗 儀礼の伝承と現代社会』（東本願寺出版、2020）

ご清聴ありがとうございました！

